

## 地域連携開放講座

## 森田まちづくり支援事業

仁愛女子短期大学 教授 内山 秀 樹

もりた夢駅～「夏物語」：JR 森田駅  
7月15日（日）

今年の夏物語ピラ（生活環境2回生）

企画を検討することを通じて協調性と発想力を高めることを目的にとりくみました。2回生は地元の実行委員会への参加、ピラなどの作成、1回生の企画、準備のアドバイスやサポート役など、企画力、リーダーシップを高めることを目的に取り組みました。

もりたんぬり絵コーナー



「もりた夢駅」は単なるイベントではありません。高齢社会の進展が著しい中、車社会からの転換、すなわち交通弱者に優しいまちづくりを目指すものなのです。具体的には、駅を中心に森田地区内にコミュニティバスなどを走らせ、駅までバスで行って電車を利用するなど、「歩いて暮らせるまち」の実現に向けた取り組みの一環なのです。そのために、これまで駅利用者にしか縁のなかった駅に関心をもっていただき、愛着を持っていただき身近に感じていただくことを目的に2009年から開催してきたものです。

今年も生活環境専攻1回生全員が「地域環境論」の一環として、さらに内山研究室のゼミ生10人が「演習I」の一環として参加。1回生は、授業で5グループに分かれて



お絵描きせんべいコーナー（環境1回生）

当日は、午後1時から現地での準備開始。汗まみれになりながらも、楽しみながらがんばりました。本番は4時。生活環境生の企画としては、「もりたん（森田地区のイメージキャラクターで2009年に本学学生が提案、採用されたもの）ぬり絵」、「お絵かきせんべい」、「かざぐるま」などたくさんの子供たちが楽しみました。また、仁短絵本同好会の手遊びと読み聞かせに子供たちは目を輝かせていました。クライマックスの音楽学科専攻科生のエレクトーン演奏に大きな拍手が寄せられました。今回も地域の子どもから大人まで約250人が訪れ、楽しんでいただきました。



手遊び＆読み聞かせコーナー（絵本サークル）



エコキャンドル原画

## エコキャンドル2012：九頭竜川河川敷 7月28日（日）

本学学生が今年度初めて参画したエコキャンドル。以下、そのプロセスを含めて報告します。



実行委員会への参加（左列：生活環境2回生）

昨年度、森田地区が初めてチャレンジしたエコキャンドルを、今年は1万個のキャンドルで大々的に行いたいので、デザインを仁短にお願いしたいと依頼がありました。そこで、当研究室のゼミ生が学内で案を募集し、エコキャンドル実行委員会に案を複数提案することとしました。そのために、会場となる九頭竜川河川敷の計測を行ったり、エコキャンドルの趣旨や応募の注意点などを検討して応募要領を作成し、生活環境1回生から案を募集しました。

上がった案をゼミ生が複数の候補案にアレンジし、実行委員会に提案しました。実行委員会での検討の結果、採用されたのが左下図の原画で、森田がはぐくまれてきた九頭竜川にサクラマスが泳ぎ、川を挟んで地球と少女が仲良く手をつなぐ様子が描かれており、環境に優しいまちづくりの必要性を訴えています。この原画をもとに事務局が実際に河川敷にキャンドルを置くためのポイントを示す座標マップを作成しました。

当日、本学は期末試験をひかえていることもあり、学生は希望者のみの参加としましたが、1、2回生約15名が参加。当日は午前中から地元住民も含め約50名が座標マップをもとにキャンドルの配置作業に汗を流すこと5時間。ようやく5時にはめでたく点灯作業が始めることができました。クライマックスの7時には、大勢の観客が訪れ、堤防の上から作品を鑑賞したり、キャンドルの中を歩いたり写真を撮りあったりして、あちこちから感動の声があがっていました。



今回、本学が依頼されてデザイン画を制作しましたが、まちづくりの観点、住民の関心、意識の向上からの観点からすると、広く森田の住民から募ることが望まれ、これについては次年度の課題としたと思います。



炎天下のキャンドル配置作業



幻想の世界でポーズ！



電やサクラマスなどをモチーフに暗闇に浮かび上がったキャンドルアート＝28日、福井市下森田新町の九頭竜川河川敷（青池才撮影）

## 九頭竜河川敷にエコの灯

### 廃油ろうそく 1万本並べアート

住民手作り

環境保全をテーマに地区の一体感を高めようと、福井北商工会青年部と森田公民館が恒例の「森田まつり」に合わせ企画した。8月から始めたキャンドル作りには、子ども会育成会や地区社協などから延べ約200人が参加。森田小の給食で出た廃油を固め、牛乳瓶のふたで芯を作った。縦40センチ、横30センチに及ぶキャンドルアートは、地区内の仁愛女子短大の学生が原画デザインに協力。地球に両手を伸ばす女の子をモチーフに、九頭竜川を象徴する電や遡上するサクラマスを描き「森田」の文字を添えた。

大勢の親子連れや小学生らが見守る中、午後7時ごろに点灯を開始。数分経つとろうそくの灯が暗がりにつれて、辺りは幻想的なムードに包まれていった。河川敷に愛らしい絵が浮かぶと、住民らは堤防から見下ろして出来栄を確認していた。

企画に携わった福井北

### 福井 森田地区でイベント

福井市森田地区のエコキャンドルイベントが28日、同市下森田新町の九頭竜川河川敷で開かれた。住民手作りの廃油ろうそく約1万本のともしびが、夏の夜に巨大アートを描いた。

（細川鶴弘）

F2012/07/29

商工会青年部理事の佐々木文章さん（38）は「森田の団結力の証しを示すことができた。これから恒例のイベントにしていきたい」と話していた。

森田まつり2日目の29日はハワイアンフラダンスや沖縄民謡の発表、家電製品などが当たる抽選会があるほか、午後8時から大花火大会が開かれる。

本番の様子（福井新聞 2012 年 7 月 29 日）